

新年のごあいさつ



清須市長

永田 純夫

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、新年を健やかに迎えのことと、お慶び申し上げます。また、日頃は市政運営にご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されたから、今まで経験したことのない新たな日常に直面した1年となりました。

また、この感染症は、日本経済にも未曾有の経済停滞をもたらすこととなりました。観光業界においては、インバウンド需要の減少から消失、更に、感染拡大を防止するため、あらゆる経済社会活動の抑制を余儀なくされました。このような状況下で、本市としましては、生活負担の軽減、市内経済の活性化などを図るべく、市独自の支援策を打ち出し、皆様の生活の一助となるよう施策を行うてまいりました。

新しい年を迎え、期待されているワクチン接種が現実味を帯び、昨年延期となった東京オリンピック・パラリンピックの開催やデジタル庁の創設による経済波及効果など、明るい兆しもありますが、これからも暫くは感染症と向き合う必要があると思われれます。地道ではありますが、新たな日常に向けた働き方をはじめ、行動時におけるエチケットの実践といった生活様式を再認識しながら更に見直しを図りつつ、感染防止と経済活動の両立を目指すことが肝要かと考えております。

さて、本市の市政運営におきましては、安全で安心に暮らせるまちづくりを目指し、都市型水害に対応するための雨水排水対策として、土田排水区及び水場川右岸排水区の雨水幹線整備、堀江ポンプ場、豊田川ポンプ場の改築・更新とともに、県施行の五条川改修事業に併せて西清洲ポンプ場の整備を進めてまいります。

子育て施策としましては、老朽化の著しい清洲児童館を令和4年4月の供用開始に向け、児童センターとして建て替えを進めてまいります。また、更なる保育ニーズの増加に対応するため、西枇杷島地区において民営の認定こども園の整備を支援するなど、引き続き保育園の待機児童ゼロを維持してまいり

ます。小中学校につきましては、GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒が1人1台の端末機器を持ち、活用できるICT環境の整備を従前の計画を前倒しして進めてまいります。

都市整備事業としましては、斎苑整備事業の令和3年度の供用開始に向け、周辺地区の皆様のご理解とご協力のもと、斎苑施設の建設を進めてまいります。また、幹線道路につきましては、桃栄跨線橋が今年度末に開通予定であり、これに併せて、都市計画道路清須新川線について、五条川左岸堤防道路へ接続する道路整備を進めてまいります。

そして、これまでのまちづくりの歩みを止めることなく、第2次総合計画の後期基本計画で掲げる政策・施策の推進にスピード感をもつて取り組み、市民生活をより豊かにするとともに、将来にわたって活力の溢れるまち、「力強い清須」の実現に向けて全力を尽くしてまいりますので、引き続き市政に対するご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、新しい年が市民の皆様にとって輝かしい飛躍の年となりますよう、また、心身ともに健康でお過ごしいただきますよう心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ



清須市議会議長

成田 義之

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、令和3年の輝かしい新春を健やかに迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。

平素は、市議会活動並びに市政運営に對しまして、温かいご理解と絶大なご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

新年にあたり、市議会を代表いたしまして「ごあいさつ」を申し上げます。

新たな年を迎えるにあたり、議会の責務を遂行するために全議員の総力を結集し、清須市の更なる発展を願い、第2次総合計画の基本理念であります、「安心」・「快適」・「魅力」・「連携」を基に、本市の将来像である「水と歴史に織りなされた安心・快適で元氣な都市」の実現を目指し引き続き邁進する覚悟でございます。

市議会といたしましては、これまで同様、市民の皆様方の声を傾け連携を一層密

にし、市と一体となって進めるべきものについては、議員一丸となり市と協力して積極的に進めるとともに、時には厳しい意見も申し上げ、議論を尽くし、監視役としての役割も果たしてまいる所存でございます。

昨年は、1月16日に国内で初の感染者が確認された新型コロナウイルスにより、国内はもとより世界各国において感染者が増加し、日常生活、経済活動などあらゆる分野に影響をもたらしました。「ウィズコロナ」「新しい生活様式」といわれるようになり、日常生活等において各種制限が必要となっております。昨秋以降には流行の第3波に入り、国・県とも連携を取りながら、感染予防等の呼びかけを行ってまいりました。市民の皆様におかれましては、引き続き、感染予防とともに感染拡大防止への取り組みをお願い申し上げます。

また、昨年も7月には「令和2年7月豪雨」と言われる大雨により各地で川の氾濫など大規模な浸水や土砂災害が発生しました。幸い本市には大きな被害などはございませんでしたが、ゲリラ豪雨と称される集中豪雨や近い将来発生が予想されております南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、更なる防災力の強化を図っていかねばなりません。昨年、本市では東海豪雨から

20年の節目を迎え、この災害を風化させることのないよう、改めて後世に伝えていく必要性を感じました。

市といたしましては、昨年10月に行政執行体制を強化し、多様化する行政課題に迅速に対応するため、組織機構改革として危機管理、財産管理、企業誘致の担当組織を新設いたしました。また、市民課窓口業務の一部を事業者に委託いたしました。今後、一層の市民サービス等の向上に期待しております。

市議会といたしましては、限られた貴重な財源をどのような施策に充てるべきか、議員一人ひとりの責務を全うし、議論を尽くし、将来の清須市のあるべき姿をしっかりと見定めて市政に提言していくことが、私たち議員の重要な使命であると考えております。

私たち議員は、複雑多様化する行政需要を適確に把握するとともに、議会の情報を適確にお伝えし、議会の公開性・透明性を高め、開かれた議会を目指してまいります。結びに、本年も変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。市民の皆様のご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新春を迎えて

愛知県知事 大村 秀章



あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立に取り組むとともに、ジブリパークの工事着手や、スタートアップ支援拠点「ステーションA i」の事業開始など、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、「愛知」を「新起動」させる年となりました。

世界は、新型コロナウイルスの感染拡大、グローバル化やデジタル化の加速度的な進展などにより、刻々と変化しています。愛知県が日本の成長エンジンとして、我が国の発展をリードし続けるためには、変化に的確に対応し、新たな付加価値を生み出していかなければなりません。

今年も、国内外から最先端の技術・サービス・人材を取り込みながら、モノづくり産業と融合した愛知独自のスタートアップ・エコシステムを推進し、新たな付加価値を創出する「愛知発イノベーション」の実現を目指します。

あわせて、ジブリパークの整備など、愛知の魅力を高める取組を進め、国内外でのプレゼンス向上を図ります。

また、リニア開業を見据えた社会基盤整備、農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民生活と社会福祉の向上にも取り組むとともに、今年開催予定のロボカップアジアパシフィック大会・ワールドロボットサミット、世界ラリー選手権などのビッグイベントも万全の準備を整え、愛知の魅力を世界中に発信してまいります。

「暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち」の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

西枇杷島警察署長 藤村 洋一



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から地域の安心安全のため、御支援、御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年中は、「二市一町の安心安全」を西枇杷島警察署の目標に掲げ、各種警察活動を推進してまいりました。全国的なコロナ禍にも関わらず、各自治体をはじめ地域の皆様、各種団体等による犯罪抑止活動、交通安全活動など力強い御協力を賜り、地域の防犯力を高め、犯罪に強い地域とすることができました。皆さんの身近で発生する住宅対象侵入盗は、これまで増加傾向でありましたが昨年は減少させることができ、さらに交通死亡事故も大幅に減少させることができました。

今年も地域の安全を担う警察署として、犯罪の抑止、交通死亡事故の抑止、青少年非行防止、災害警備などの各種警察活動を強力に推進してまいります。